

(限 内 部)

海軍公報

(部内限)第四千八百四十四號

昭和十七年五月七日(木)
海軍大臣官房

○令 達

官房第二八八號ノ六

官房第一一二號ニ依ル第四十三海軍軍用郵便所ハ四月二十五日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十七年五月六日

海軍大臣

(二月十日日本欄参照)

官房機密第五五三五號

昭和十七年五月七日

海軍大臣

昭和十七年各種検定ヲ實施セザル場合同種類ノ競技施行等ニ關シ左ノ通定ム

一 昭和十六年内令第五百六拾五號ニ依リ検定ヲ實施セザル場合所屬長官ハ該検定ニ代フルニ同種類ノ競技ヲ施行セシムルコトヲ得

二 前號ニ依ル競技費ハ年度ヲ通シ競技員一人ニ對シ

金四拾錢ノ割合ニ依リ所屬長官ノ請求ヲ俟テ別途配付ス

三 検定ヲ實施セザル場合現ニ優等章ヲ有シ且優等章ヲ授與セラルベキ配置ニ在ル者ニ對シテハ海軍檢定褒賞令施行規則第九條第三號ノ規定ニ拘ラズ該優等章ハ其儘之ヲ保有セシメ且其ノ旨本人ノ履歷表ニ記入セシムルモノトス

四 検定ヲ實施スル場合其ノ賞品及賞狀費ハ第二號ノ規定ニ準シ請求ヲ俟テ之ヲ配付ス

○通 牒

官房第二七四九號

昭和十七年五月六日

海軍省副官

各廳長殿

航空郵便取扱制限ニ關スル件通牒

首題ノ件當分ノ間左記ニ依リ取扱フコトニ定メラレ候

海軍公報(部内限)第四千八百四十四號

昭和十七年五月七日

四五三

0084

條了知相成度

記

一 引受郵便局

普通局、指定局及集配特定局ニ限ル但シ滿洲國宛ノモノハ東京、川崎及横濱市内ノ局ニ限ル

二 取扱地域

(一) 一般郵便

内地、臺灣、樺太、南洋群島、滿洲、中支、南支、佛印及泰相互間

(二) 軍事郵便

北支以外ノ地相互間

三 取扱郵便物

(一) 一般郵便

官署、陸海軍ノ部隊及同學校、大公使館、領事館其ノ他外國ノ官署（官職及氏名ヲ記載シタル官吏、軍人及軍屬ヲ含ム以下同シ）相互間ニ發著スル公用ノ有封書狀及第二種郵便物

(二) 軍事郵便

官署、陸海軍ノ部隊及同學校相互間ニ發著スル公用通常郵便物

四 注意

經豫第三號ノ八八

昭和十七年五月七日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

マニラ市及蘭貢ニ日本銀行代理店設置ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通大藏省理財局長ヨリ通知有之

候條了知相成度

藏理第一四五六號

昭和十七年四月二十七日

大藏省理財局長 山住 克己

海軍省經理局長 武井大助殿

今般國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ比律賓マニラ市、緬甸蘭貢ニ設置シ昭和十七年五月一日ヨリ之ガ事務ヲ取扱ハシムルコトト相成候條此段及通知候也
追而本件ハ官報ニ告示ノ手續ヲ探ラザルニ付御含置

0085

相成度申添候

○ 辭 令

第四艦隊司令部附ヲ命ス(三三海軍省) 大藏屬 川崎 信吉

海軍技術會議議員海軍大佐 山森 危之助

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス 海軍警備府附ヲ命ス 栃木縣書記官 保岡 武久

(各通) 集配員 山田 數衛
同 山口 七郎
同 爲岡 福智
同 滿潮萬右衛門
集配員 田畑 信義

第六海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上五五同)

(各通) 海軍機關大佐 塚 野 晋(艦本監)
海軍豫備大尉 佐 藤 勤(三驅潛)
海軍技師 濱村 雅男(艦本監)

同 菊池 正人(同)
第二十八號驅潛艇審議委員ヲ命ス(三三海軍艦政本部)

○ 雜 款

司令艇變更
第二十一掃海隊司令ハ三月二十二日司令艇ヲ第八號掃海艇ニ變更セリ

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 ヲ壹〇參 ヲ壹〇〇
(第六十五警備隊)

横須賀郵便局氣付 ヲ五〇 ヲ七〇
尙當隊ハ本隊ト合同豫定ニ付書類ノ發送ハ停止サレ度

(第一航空隊派遣隊)

佐世保郵便局經由(軍事郵便)
第二十五海軍軍用郵便所氣付
(第十二驅潛隊)

第十三驅逐隊、水雷艇、北京丸、唐山丸、華山丸宛
佐世保郵便局氣付

(軍事郵便)(下關郵便局留置)
第三十三驅逐隊、水雷艇、長壽丸、でり丸宛

海軍公報(部内限) 第四千八十四號 昭和十七年五月七日

四五五

0086

澎湖郵便局氣付（軍事郵便） 第二十二驅逐隊、浮島丸宛 軍事航空郵便（公用）ハ臺北郵便局經由 第四十一海軍軍用郵便所氣付	第一海上護衛隊司令部宛 軍事航空郵便（公用）ハ臺北郵便局經由 第四十一海軍軍用郵便所氣付 其ノ他ハ 佐世保郵便局氣付（軍事郵便） イ壹九 イ參六司令部 追テ當隊宛ノ公用文書ニシテ主トシテ輸送並護衛 ニ關スルモノハ別ニ寫一通ヲ左ニ送付相成度 廣島縣宇品郵便局氣付 船舶輸送司令部參謀部 岡島海軍中佐 （第一海上護衛隊司令部）	○事務開始 香港地方海軍運輸部ハ五月一日ヨリ第二海軍軍需部内ニ於テ事務ヲ開始セリ 昭南地方海軍運輸部ヲ第百一海軍軍需部内ニ、西貢地方海軍運輸部ヲ第百一海軍軍需部西貢支部内ニ五月三日開設執モ事務ヲ開始セリ	○殘務整理 海南海軍航空廠殘務整理ハ四月十五日ヨリ第六十一海
軍航空廠海南補給工場（舊海南航空廠）内ニ於テ之ヲ行フ 舊第九十一警備隊ノ殘務整理ハ第九特別根據地隊内ニ於テ行フ 追テ郵便物ハ佐世保郵便局氣付イ貳〇イ參壹宛送付相成度 （第九特別根據地隊）	○三月一日野島丸、四月一日木曾川丸給與及共ノ他ノ經費支拂ハ第百一海軍經理部々員ヲシテ之ヲ掌理セシム （第一南遣艦隊司令長官）	○取消 去月七日雜款欄郵便物發送先中「第二海軍衣糧廠（假稱）建設準備委員」宛先ハ取消ス	

0087

(限 内 部)

0088

海軍公報 (部内限) 第四千八十五號

昭和十七年五月八日 (金)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第五二五二號ノ二

昭和十二年官房機密第五二五五號ノ二中「適宜」ノ下
ニ「聯合特別陸戰隊主計長又ハ」ヲ加フ

昭和十七年五月一日

海軍大臣

(参照) 海軍機密會計法規類集七頁

官房機密第五五九五號

昭和十四年官房第七三九號中左ノ通改正ス

昭和十七年五月八日

海軍大臣

別表ヲ別表ノ如ク改ム

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(別表添)

官房機密第五五九六號

當分ノ間占領地ニ於ケル無線、有線及電氣兵裝施設工
事ハ別紙標準ニ依リ之ヲ實施スベシ

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セ
シム

昭和十七年五月八日

海軍大臣

○ 通 牒

官房第二八〇一號

昭和十七年五月八日

海軍次官

關係廳長殿

免稅協定兵器ニ關スル件通牒

昭和三年官房第一四四〇號ヲ以テ大藏次官ト協定ノ關
稅定率法第七條第三號該當兵器ノ解釋及輸入手續ニ關
シ左記ノ通追加方協定致候

海軍公報 (部内限) 第四千八十五號

昭和十七年五月八日

四五七

記

- 一 (丁) 特殊兵器ノ部中一三號化學兵器類「航空機用特殊潤滑油、パラフロ、石炭酸エチル液(テトラエチルフルード)、イソプロピルエーテル、フルフラール及プロパン」ノ次ニ「臭素」ヲ、臭素製品(ニ臭化エチレン及臭化曹達)ノ次ニ「レシチン」ヲ加フ
- 二 附記ノ項中航空廠長ノ次ニ「燃料廠長」ヲ加フ

(参照) 會計法規類集四卷六九六頁

官房第二八〇二號

昭和十七年五月八日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長各艦隊、鎮守府、警備府參謀長
各艦隊、鎮守府、警備府軍醫長 殿

特殊製劑使用ニ關スル件申進

首題ノ件左記ニ依リ實施方取計相成度

記

一 夜間視力ノ保持増進ヲ目的トスル特殊製劑

(イ) 使用者ノ範圍

見張員、測的員等ニシテ特ニ夜間視力ノ保持増進

ヲ必要ト認ムル者

(ロ) 特殊製劑ノ名稱

視力恢復錠甲

視力恢復錠乙

ビタミンA球

(ハ) 使用量及使用方法

視力恢復錠甲 一回一錠 一日三回食前服用

視力恢復錠乙 一回四錠 一日三回食後服用

ビタミンA球 一回二球 一日三回食後服用

視力恢復錠甲ハ夜間視力ノ最高發揮ヲ必要トスル

三日前ヨリ三日間ビタミンA球ト併用シ爾後三日

間ビタミンA球ノミヲ連續服用スルモノトス

視力恢復錠乙ハ同錠甲ノ代用品ニシテ夜間視力ノ

最高發揮ヲ必要トスル前日一日間ビタミンA球ト

併用シ爾後五日間ビタミンA球ノミヲ連續服用ス

ルモノトス

(備考)

特殊製劑ノ主要成分ハ左ノ如シ

視力恢復錠甲 デヒドロコール酸ナトリウム

視力恢復錠乙 クロクロン

ビタミンA球 ビタミンA

二 除倦覺醒ヲ目的トスル特殊製劑

(イ) 使用者ノ範圍

見張員、水中測的員、電信員、操舵員、機關員其
ノ他過度ノ精神作業ニ従事スル者ニシテ夜間長時
間當直中特ニ緊張ヲ必要ト認ムル者但シ軍醫科士
官ニ於テ使用適當ナラズト認ムル者ヲ除ク

(ロ) 特殊製劑ノ名稱

除倦覺醒錠

(ハ) 使用量及使用方法

一回三錠、入直一時間前服用
服用回數ハ一日一回ヲ限度トスルモノトス

○ 辭令

海軍中將 澤本 頼雄
南西方面施設制度調査委員會委員長ヲ命ス

(幹事長)

(幹事)

海軍少將 鈴木 義尾
同 保科 善四郎
海軍大佐 石川 信吾
同 橋本 象造
同 松崎 彰

(各通)

(幹事)

(幹事)

(幹事)

(幹事)

(幹事)

同 篠田 勝清
同 高田 利種
同 山本 親雄
同 栗原 悦藏
同 田口 太郎
同 杉浦 矩郎
同 神重 重徳
同 志岐 常雄
同 金岡 知二郎
海軍中佐 國府田 清
同 大前 敏一
同 吉田 英三
同 榊引 誠雄
同 岡部 三四二
同 瀬戸 喜久太
同 高崎 能彦
同 榊端 久利雄
同 野田 六郎
同 三田 國雄
同 西川 亨
同 鵜澤 聰衛

0091

海軍公報(部内限) 第四千八十五號 昭和十七年五月八日

四六〇

海軍中佐	市川 義守
同	井上 梅二郎
海軍少佐	鷹尾 卓海
同	岩城 繁
同	檜野 武良
海軍機關大佐	渡邊 瑞彦
海軍機關中佐	高橋 長之
同	田中 千春
同	村山 愛七
同	中村 國盛
海軍軍醫中佐	有馬 玄
海軍主計大佐	稻岡 新
海軍主計中佐	松田 盛男
同	出本 鹿之助
同	小柏 直衛
海軍主計少佐	鈴木 恒雄

南西方面施設制度調査委員會委員ヲ命ス(海軍省)
 第四艦隊司令部附ヲ命ス(海軍省)
 大藏屬 朝倉 健次郎

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更
 第十九驅逐隊司令ハ五月一日司令驅逐艦ヲ綾波ニ變更セリ

○學生入校期日
 官房機密第一七一號ニ依ル本校特修科學生ハ六月三日始業式施行ニ付其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度
 (海軍機雷學校)

○判決
 判 決

海軍公報(部内限) 第四千八十五號 昭和十七年五月八日

四六一

0092

海軍公報（部内限）第四千八十五號

昭和十七年五月八日

四六二

0093

[illegible]

（昭和十七年四月八日海軍公報（部内限））

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 雜 款

○ 懲 罰

懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年五月八日 (金)
海軍大臣官房

0095

海軍公報 (部内限) 號外

二

0096

0097

海軍公報（部内限）號外

三

0098

海軍公報
(部内限)
號外

四

0099

海軍公報
(部内限)
號外

五

0100

海軍公報
(部内限)
號外

六

0101

海軍公報
(部内限)
號外

七

0102

海軍公報
(部内限)
號外

八

0103

海軍公報（部内限）號外

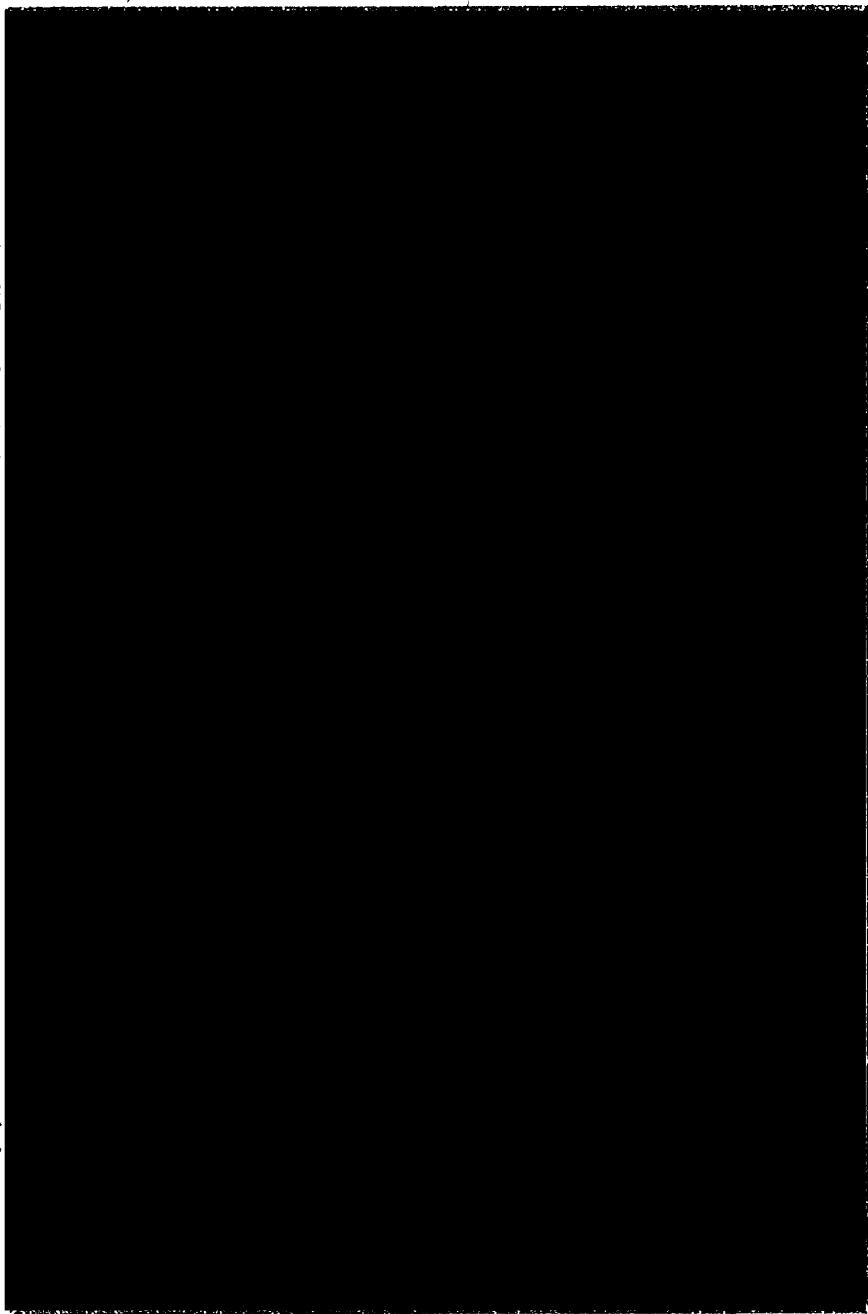
九

0104

海軍公報（部内限）
號外

一〇

海軍公報（部内限）號外



0105

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第四千八百十六號

昭和十七年五月九日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房第二八四號

明治三十八年官房第四四九四號第一項中「潜水艇及同艇隊」ヲ「潜水隊及潜水艦」ニ改メ、第二項中「吳ニ在リテハ吳海兵團主計長、其ノ他ニ在リテハ該地海軍防備隊主計長」ヲ「該地潜水艦基地隊主計長、潜水艦基地隊ヲ置カレザル地ニ在リテハ防備隊主計長」ニ改ム

昭和十七年五月八日

海 軍 大 臣

(参照) 海軍會計法規類集一卷五九頁

官房第二八三〇號

昭和十四年官房第五二九九號中「吳ニ在リテハ吳海兵團主計長、其ノ他ニ在リテハ當該戰隊所在地ノ」ヲ「當該戰隊所在地ノ潜水艦基地隊主計長、潜水艦基地隊ヲ置カレザル地ニ在リテハ」ニ改ム

昭和十七年五月八日

海 軍 大 臣

(参照) 海軍會計法規類集一卷六〇頁

官房第二八三五號

昭和七年官房第三七六五號中別表ヲ別表ノ如ク改ム
本令ハ昭和十七年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
昭和十七年五月九日

海 軍 大 臣

(別表)

旅費等級	一等乃至四等	五等乃至八等	九、十等
日 額	一五〇	一一〇	八五

(参照) 昭和七年官房第三七六五號ハ東京在勤者東京各地内ニ於ケル旅費ノ件ナリ(海軍會計法規類集二卷六三六頁)

○通 牒

海軍公報(部内限)第四千八百十六號

昭和十七年五月九日

四六三

0106

海人第一一號ノ「二四

昭和十七年五月九日

海軍省人事局長

關係廳長殿

各廳ニ於ケル海陸軍傷殘軍人採用狀況ニ
關スル件照會

傷殘軍人保護資料ト致度候ニ付首題ノ件別紙様式ニ依
リ調査ノ上七月末日迄ニ所管鎮守府ノ海軍人事部長
（本省直屬ノ各
廳ハ人事局長）ニ通報方取計相成度
（別紙添）

軍需糧第三九號

昭和十七年五月九日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係廳長殿

衣糧費豫算整理手續ニ關スル件通牒

昭和八年軍需糧第五一號衣糧費豫算整理手續ニ依ル貸
借整理ハ昭和十七年度間之ヲ行ハザルコト致候

（參照）海軍會計法規集一卷一三八頁

○ 辭 令

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
（昭和十六年海軍省）
西野 正男

（各通）

第二海城丸船長 中村 明三
同 一等運轉士 田村 勇
同 二等運轉士 佐藤 匡
同 機關長 多々良 昇
同 通信長 宮本 保

第二海城丸ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇
トス（昭和十六年同）
海軍少佐 伊東 藤雄

海南警備府ニ於ケル業務ヲ囑託ス（昭和十六年同）

旅順海軍病院並旅順警備府海軍共濟組
合事務囑託
立川 保

旅順方面特別根據地隊齒科治療業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千九百四拾五圓ヲ給シ部内限奏任官
待遇トス（昭和十六年同）
海軍少佐 伊東 藤雄

海南警備府ニ於ケル業務囑託ヲ解ク（昭和十六年同）

0107

海軍主計特務中尉 町田 利勝	正五位勳六等 江越 信胤
廣東海軍特務部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額貳千六百七拾圓ヲ給ス	海軍省事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額貳千四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三十一同)
同 座間 愛之	陸軍少尉 高見 義男
南支海軍特務部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額貳千五百五拾圓ヲ給ス	第三遣支艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(四十四同)
土居 節	小澤 嘉一郎
廣東海軍特務部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額千五百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上三十一同)	第二遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(四十四同)
勳六等 塩原 副	氣象技師 宮本 正明
齋藤 峯松	同 田島 節夫
聯合艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三十一同)	第四艦隊司令部附ヲ命ス(以上三十一同)
中島 健三	東京帝國大學教授 富塚 清
第二遣支艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三十一同)	海軍航空技術廠ニ於ケル發動機ノ研究調査囑託ヲ解ク(四十四同)
北村 直次	第四艦隊司令部附遞信技手 乙部 和夫
海南警備府ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(三十一同)	第四艦隊司令部附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命ス(五十四同)

海軍公報(部内限) 第四千八百六十六號 昭和十七年五月九日

四六五

0108

高等軍法會議判士ヲ免ス	海軍大尉	吉村 一友
東京軍法會議判士ヲ免ス		
高等軍法會議判士ヲ命ス	同	平澤 豊治
東京軍法會議判士ヲ命ス（以上八月同）		
（各通）	東京帝國大學教授	宮川 米次
	陸軍軍醫中將	田邊 文四郎
海軍省事務ヲ囑託ス		米倉 又記
海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス		
（各通）		
	只左	豊
	鈴木	改記
	須堯	健吉
海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス		
	從四位勳四等	永田 安吉
軍令部ニ於ケル調査事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス		
	海軍少佐	船橋 一一
軍令部ニ於ケル調査事務ヲ囑託ス		

東京帝國大學教授	寺澤 寛一
海軍航空本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額貳百圓ヲ贈與ス	
支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス	宇都宮 巖
第百一海軍建築部建築業務ヲ囑託ス	福島 賢治
但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス	
馬公海軍建築部建築業務ヲ囑託シ解キ第百三海軍建築部建築業務ヲ囑託ス	田村 保治郎
但シ報酬年額貳千七百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス（九月同）	
第一課勤務ヲ命ス（九月海軍省人事局）	海軍少佐 松崎 重吉

○ 雜 款

○印刷物ノ件
恩給年敍勲年加算調書別冊及同追録所要ノ向ハ在京各

應ニ在リテハ海軍省人事局、其ノ他ニ在リテハ所管鎮
守府ノ海軍人事部（又ハ最寄ノ海軍人事部）ニ於テ受
領セシメ度

（海軍省人事局）

○事務開始

マニラ地方海軍運輸部ヲ第百三海軍軍需部内ニ、ダバ
オ地方海軍運輸部ヲ第百三海軍軍需部ダバオ支部内ニ
開設就モ事務ヲ開始セリ

○正誤（普通公報）

本月二日辭令欄中「大湊海軍航空隊勤務海軍技手宮川
邦治」ハ「大湊海軍建築部勤務宮川邦治」ノ誤

0110

(別紙)

(昭和十七年五月九日海軍公報(部内限))

各艦ニ於ケル海陸軍傷痍軍人採用状況調(昭和十七年七月一日現在)

應 名

身 分 別	昭和十二年七月七日以後退職ノモノ		同上以前退職ノモノ	
	復職 新採用	復職 新採用	復職 新採用	復職 新採用
高 等 官 及 者				
同 判 任 官 及 者				
賜 託				
雇 員				
傭 人、 工 員 等				
計				

備考

- 一 本表ハ官衙、學校及作業廳ノ全部ニ就キ調査スルモノトス(艦船部隊ヲ含マズ)
- 二 調査スベキ傷痍軍人ハ軍人又ハ準軍人トシテ戰闘其ノ他ノ公務ニ依リ増加恩給、傷病年金又ハ傷病賜金(服恤金若ハ之ニ相當スル一時金ヲ給セ)ヲ受ケ又ハ受クル見込確實ノモノトス(現ニ軍人トシテ勤務ニ服スル者ヲ除ク)
- 三 未ダ恩給受給ノ確定セザル者ノ恩給ノ區分ハ其ノ見込ニ依ルコト
- 四 海軍關係傷痍軍人ハ各相當欄()内ニ内譯トシテ掲記ノコト
- 五 該當者ナキ向ハ其ノ旨通知ノコト

0111

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千八十七號

○ 令 達

官房第二七四四號
大東亞戰爭ニ於テ拿捕セル「ヨット」ヲ雜役船ニ編入
シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム
昭和十七年五月六日

海 軍 大 臣

公稱番號	船 種	所 屬	定數	別稱番號	記 事
第二三九號	ヨット	臨時所屬	(第一號)	大東亞戰爭 拿捕ヨット	
第二三〇號	同	同	(第二號)	同	
第二三三號	同	同	(第三號)	同	
第二三三號	同	同	(第五號)	同	
第二三三號	同	同	(第六號)	同	
第二三四號	同	同	(第七號)	同	

第二三五號	同	海軍	(第八號)	同	
第二三六號	同	兵學校	(第九號)	同	
第二三七號	同	同	(第一〇號)	同	
第二三八號	同	同	(第一一號)	同	
第二三九號	同	同	(第一二號)	同	
第二三〇號	同	同	(第一三號)	同	
第二三三號	同	同	(第一四號)	同	
第二三三號	同	同	(第一五號)	同	

官房第九七二號ノ二
昭和十七年官房第九七二號中左ノ通改正ス
昭和十七年五月九日
海 軍 大 臣

海軍公報 (部内限) 第四千八十七號 昭和十七年五月十一日

四六九

0112

別表中
南洋群島

南島	新南群島	南洋群島
----	------	------

ニ改ム

参照 昭和十七年官房第九七二號ハ職地ニ旅行スル者ノ旅費ニ關スル件ナリ

官房第一四四二號ノ二

昭和十七年官房第一四四二號中左ノ通改正ス

昭和十七年五月九日

海軍大臣

第一表中「及南洋群島」ヲ「南島、新南群島及南洋群島」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十七年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

参照 昭和十七年官房第一四四二號ハ職地ニ在ル工員ノ増給ノ件ナリ

官房第一四四二號ノ三

昭和十七年官房第一四四二號第二號中「通常物品」ノ下ニ「又ハ艦營需品」ヲ加ヘ同年官房第一七一六號本

文第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

鑛員ノ取扱及給與ニ付テハ工員ニ準ズ

同號第二號(四)中「通常物品」ノ下ニ「又ハ艦營需品」ヲ加フ

昭和十七年五月十一日

海軍大臣

(参照) 昭和十七年官房第一四四二號及同年官房第一七一六號ハ海軍工員臨時給與規則ノ適用範圍竝ニ海軍工員ノ取扱及給與ニ關スル件ナリ

官房機密第五六七號

昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス

昭和十七年五月九日

海軍大臣

第一項第一號中「(南洋群島ヲ除ク)」ヲ「(南島、新南群島及南洋群島ヲ除ク)」ニ改ム

同項第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 沖ノ島島ニ在ル艦船部隊

同項第五號中「臺灣」ノ下ニ「(新南群島ヲ除ク)」ヲ加フ

附則

海軍諸例
則登載

0113

本令ハ昭和十七年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 昭和十六年官房機密第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ノ給與ニ關スル件ナリ

官房機密第五六九四號

臨時軍事費特別會計歲出科目中左ノ通追加ス

昭和十七年五月九日

海軍大臣

款	臨時軍費	臨時軍費	雜給及 雜費	占領地民政費	占領地民政費	海南警備府、第四艦隊所屬民政事務、於要スル發費、衛生費、其ノ他ノ雜費	會計科 電信略
項							
目							
節							
解							
疏							
會計科 電信略							

〔節〕ノ「解疏中」及「第四十條」ヲ、第四十條及海軍戰時特令給與規則ニ改ム

官房機密第五七三三號

大東亞戰爭中分離行動其ノ他ノ事由ニ依リ所屬ノ潜水母艦ヨリ糧食ノ供給ヲ受クルコト困難ナル潜水母艦ハ最寄ノ艦團其ノ他各部ヨリ糧食品ノ供給ヲ受クルコトヲ得

艦團其ノ他各部ノ兵備品取扱主任前項ノ規定ニ依リ糧食品ヲ供給シタルトキハ當該潜水艦長ヨリ領收票ヲ徴シテ消耗拂トシ供給ヲ受ケタル潜水艦ノ擔任兵備品取扱主任ニ其ノ品名及數量ヲ通報スベシ

昭和十七年五月十一日

海軍大臣

○辭令

海軍技術會議議員海軍大佐 横井俊之

海軍艦政本部技術會議員ヲ命ス

海軍航空本部技術會議員ヲ命ス

海軍技術會議議員海軍中佐 石原 宇市

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス（以上十月五日海軍省）

海軍公報（部內限）第四千八十七號

昭和十七年五月十一日

四七二

第二課勤務ヲ命ス（海軍省人事局） 海軍中佐 柴 北 明	第二課兼第一課第三課勤務ヲ命ス 海軍機關中佐 安田 忠吉	免兼第一課勤務（以上海軍省軍需局） 海軍主計兵曹長 伊 藤 忍	第二十一通信隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲 爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス（支出官 海軍省經理局長） 海軍主計特務中尉 佐藤 芳雄	第四氣象隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦 隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス（支出官） 馬公海軍經理部部長 松井 直行 員海軍主計大尉	艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス 海軍主計大尉 松本 孝	右同分任出納官吏ヲ免ス（支出官）	○ 雜 款
○ 旗艦變更 第二航空戰隊司令官ハ五月八日旗艦ヲ飛龍ニ變更セリ	○ 司令驅逐艦變更 第二十三驅逐隊司令ハ五月七日司令驅逐艦ヲ夕月ニ變更セリ	○ 郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度 佐世保郵便局經由（軍事郵便） 第一海軍軍用郵便所氣付 （驅逐艦 栗）	隊、司令、機關長、軍醫長、主計長宛 （第四監視艇隊） 第一號明治丸	○ 訂正 二月十九日雜款欄中「海軍矢野隊」ヲ「海軍矢野部隊」ニ訂正ス	○ 正誤 本月六日令達欄官房第二七四七號來島丸ノ項中「第百一海軍（港務部供用）」ハ衍		

海軍公報

(部内限) 第四千八百八十八號

昭和十七年五月十二日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第五七一三號

本年六月一日現在ノ工員(見習工員ヲ除ク)ニ對シ左ノ標準ニ依リ定期賞與ヲ支給スベシ其ノ増減支給及本令施行ノ細目ニ關シテハ海軍省經理局長、海軍艦政本部長、海軍航空本部長及海軍施設本部長ヲシテ夫々關係ノ向ニ通牒セシム

職員ニ對シテハ本令ヲ準用ス

昭和十七年五月十一日

海 軍 大 臣

一 一般賞與

勤績一年以上ノ者	賃錢	四十三日分以内
同 十月上ノ者	同	三十八日分以内
同 八月上ノ者	同	三十三日分以内
同 六月上ノ者	同	二十八日分以内
同 四月上ノ者	同	二十日分以内

二 増加賞與

同 二月上ノ者	同	十五日分以内
同 一月上ノ者	同	十日分以内
(一) 勤績一月上ノ者ニシテ扶養家族ヲ有スル工員(徴用工員ヲ含ム)ニ對シ増給		
(イ) 扶養家族三人以内ノ者	賃錢	三日分以内
(ロ) 扶養家族四人以上ノ者	同	五日分以内
(二) 徴用工員ニ對シ増給	同	十二日分以内
但シ徴用期間一月ニ付賃錢二日分トス		

○通 牒

經物第八六號

昭和十七年四月二十八日

海軍省經理局長

各海軍經理部長
各契約擔任官 殿

契約書作成省略ニ關スル件通牒

昭和十五年經物第六八號首題通牒ハ經物第八四號ヲ以

海軍公報(部内限) 第四千八百八十八號

昭和十七年五月十二日

四七三

テ海軍契約規程施行手續改正ニ依リ自然消滅ノ義ト了
知相成度

（參照）海軍會計法規類集四卷二九九頁

○ 辭 令

遞信局技師 椎名清五郎

通信書記 高野 博

（各通）

同 横田角三郎

遞信局技手 岩崎憲三

同 元木勇藏

第二聯合特別陸戰隊附ヲ命ス

遞信手 遠山 作治

第二聯合特別陸戰隊附ヲ命ス

但シ部内限判任官待遇トス（九〇〇海軍省）

海軍中佐 鶴澤 聰衛

第二課勤務ヲ命ス（四〇〇海軍省軍務局）

（各通）

海軍中佐 藤田 正路

海軍機關中佐 今田 乾吉

第一課勤務ヲ命ス（五〇〇同）

○ 雜 款

水雷艇準ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊
經費臨時分任出納官吏ヲ命ス（四〇〇支出官 海軍省經
理局長）

海軍大尉 富田 敏彦

○旗艦變更

第三潜水戰隊司令官ハ五月九日旗艦ヲ靖國丸ニ變更セ
リ

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

第十二特別根據地隊

佐世保局經由第四十二海軍
軍用郵便所氣付 イ參貳

水 雷 艇 雁

同 右 イ參貳 雁

特設砲艦江祥丸

同 右 イ參貳 江祥丸

第十二通信隊

同 右 イ參四

第四十一掃海隊

同 右 第一京丸

同 右 イ參貳 麗水丸

同 右 高雄丸

0118

同 右 第二京丸

(第十二特別根據地隊)

海軍公報(部内限)第四千八十八號 昭和十七年五月十二日

四七五

海軍公報(部内限)第四千八百十九號

昭和十七年五月十三日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房第二九一五號

當分ノ間艦船部隊ニ於テ二號内部礦油ヲ要スル場合艦
營需品經理規程別表第二號使用區分表ノ範圍ニ於テ二
號外部礦油ヲ代用スルコトヲ得

昭和十七年五月十三日

海 軍 大 臣

官房第二九一六號

海軍軍醫學校ニ附屬ノ診療部及東京應急病舎ハ部内限
リ海軍軍醫學校附屬病院ト呼稱スルコトヲ得

昭和十七年五月十三日

海 軍 大 臣

○通 牒

官房機密第五八三九號

昭和十七年五月十三日

海軍公報(部内限)第四千八百十九號 昭和十七年五月十三日

海 軍 次 官

横須賀、吳鎮守府司令長官
海軍艦政本部部長 殿
海軍航空本部部長 殿

海軍技手養成所教育ニ關スル件申進

海軍技手養成所規則第五條但書ノ規定ニ依ル練習工員
ノ修業年限ヲ當分ノ間半年以内短縮スルコトニ定メラ
レ教育實施其ノ他詳細ノ事項ニ關シテハ海軍艦政本部
長又ハ海軍航空本部長ヲシテ關係ノ向ニ通知セシメラ
レ候

軍務一第七〇號

昭和十七年五月十二日

海軍省軍務局長

各廳長、殿

休暇取止ニ關スル件申改正ノ件申進

昭和十六年軍務一第一四八號申進首題ノ件申「十日以
内」ヲ「十二日以内」ニ、「海軍航空豫備學生」ヲ「海
軍豫備學生」ニ改メラレ候

海軍諸將
則登載

（諸例則卷一、八〇二頁参照）

經豫第三號ノ一六六

昭和十七年五月十三日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

スラバヤ市、バンドン市及バタビヤ市ニ

日本銀行代理店設置ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通大藏省理財局長ヨリ通知有之候條了知相成度

（別紙）

藏理第一五九九號

昭和十七年五月六日

大藏省理財局長 山住克己

海軍省 經理局長 武井大助殿

今般國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ瓜哇スラバヤ市、同バンドン市及同バタビヤ市ニ設置シ昭和十七年五月十五日ヨリ之カ事務ヲ取扱ハシムルコト相成候條此段及通知候也

追而本件ハ官報ニ告示ノ手續ヲ採ラザルニ付御含置相成度申添候

教育第一七號ノ五二

昭和十七年五月八日

海軍省 教育局長
海軍省 經理局長各鎮守府
各艦隊
各警備府 參謀長殿

映畫貸與事務移管ニ關スル件照會

從來海軍省教育局ニ於テ各鎮守府各艦隊各警備府等ニ貸與致居候慰安用映畫「フィルム」ハ海軍省經理局ヘ移管ノコトニ致候ニ付テハ昭和十七年五月以降ノ貸與ハ同部ニ於テ取扱フコトニ御了知相成度
追而現在貸與中ノ分ニ限リ使用終了次第從來通海軍文庫宛返還相成度

教育機密第一一七號

昭和十七年五月十二日

海軍省 教育局長

關係廳長殿

軍鳩通信訓練ニ關スル件申進

當分ノ間軍鳩ニ依ル通信訓練ニ關シ左ノ通定メラレ候一 軍鳩通信訓練ハ戰闘訓練規則草案第二條通信訓練

ノ一部トシテ之ヲ取扱フモノトス
 二 軍鳩通信訓練ニ關スル報告ハ一般教練作業ニ準ジ
 之ヲ處理スルモノトス但シ關係各學校長ニ送附スベ
 キモノハ之ヲ横須賀防備隊司令宛送附スルモノトシ
 報告様式適宜トス

○ 辭 令

軍令部部長兼第一海上 中村 健夫
 陸衛隊參謀海軍中佐
 當分ノ間兼務應ニ於テ勤務スヘシ(十四日軍令部)
 兼第一一部第一課勤務ヲ命ス(十四日同)
 軍令部部長兼海軍中佐 井浦 祥二郎
 同
 第一一部第二課勤務兼同防備班長ヲ命ス(十四日同)
 軍令部出仕海軍大佐 太田 信之輔
 第一一部長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(十四日同)
 海軍中佐 金岡 知二郎
 參謀部第一一部第二課勤務兼同防備班長ヲ命ス(十四日同)
 大本營海軍部
 海軍機關少佐 多田 久爾夫
 第二課兼第一課勤務ヲ命ス(十四日海軍省軍需局)

○ 雜 款

海軍機關中佐 伊藤 喜六(吳廠)
 伊號第十一潛水艦審議(除航空關係)委員ヲ命ス
 海軍少佐 田中 万喜夫(吳廠)
 伊號第十一潛水艦審議(除航空關係)委員ヲ免ス
 (以上九日海軍艦政本部)
 ○司令潛水艦變更
 第二潛水隊司令ハ五月十一日司令潛水艦ヲ伊號第十九
 潛水艦ニ變更セリ
 ○郵便物發送先
 自今左ニ依リ發送相成度
 横須賀海軍砲術學校内
 海軍大田(實)部隊
 (第二聯合特別陸戰隊)
 佐世保郵便局氣付(軍事郵便)
 (水 雷 艇 雄)
 第二十一掃海隊、第九、第十號掃海艇宛ノモノハ
 佐世保海軍經理部内
 第二十一掃海隊殘務整理員
 (第二十一掃海隊殘務整理員)

○試験問題發送

自第八十一期 普通科整備術練習生採用試験問題
至第八十六期

右四月二十日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向
ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ當隊ニ至急通知相成度

記

一 單獨試験施行豫定所轄ハ直送

二 聯合試験用ノモノハ各海軍人事部長、警備府參謀
長宛送付（聯合試験參加豫定ノ艦船ニシテ豫定變更
ノ爲聯合施行不可能ノ向ニ對スル分トシテ若干ノ餘
裕ヲ含ム）

（横須賀海軍航空隊）

○事務引繼

八幡海軍監督官事務所資金前渡官吏四月四日事務引繼
ヲ了ス

新任

海軍主計中佐 大友 美能理

前任

同 德永 春雄

○事務開始

第二聯合特別陸戰隊ハ五月一日横須賀海軍砲術學校内
ニ於テ事務ヲ開始セリ

○残務整理

舊第二通信隊残務整理ハ舞鶴防備隊内海軍兵曹長山口
七郎、海軍機關兵曹長高嶋渡之ヲ行フ

○事務所撤去
隼鷹艦裝具事務所ヲ五月三日撤去セリ